

大阪・国立国際美術館館長、建畠哲(たけがは)さんは美術評論家としては「問いなき回答」(五柳書院刊)など評論集2冊を出し、さらに歷程新鋭賞、高見順賞を受賞した詩人としては「零度の犬」(書肆山田刊)など詩集4冊、エッセー集

国立国際美術館館長

建畠 哲さん

◇言葉歴は40年を超す。

高校生のころから見てるんですが、見始めた動機がきわめて不純で……。言葉大好きな銀座の本店の女将さんのお供をして言葉に付いてゆくと、お小遣いをくれるんですよ。高校生のころは言葉に興味がないし、通し狂言を付き合ったら地獄みたいで(笑)。1日8時間ぐらい劇場に居るわけでは



から。でもお小遣い目当てで、公演のたびに付いて行っていました。大学に入ったころ(1967年)、その女将さんと言葉を見に行ったら(都立)小石川高校で一緒にいた林雄治とそっくりの人間が、大夫の末席に座っているんですよ。

◇それが現豊竹英(よしのぶ)大夫さん。

終わってすぐ楽屋へ行ったら、林が出てきて「よー、久しぶり」と喜んでくれて。彼の東京での初舞台だったんです。

英大夫とは中学生のころ、英語の塾で初めて知り合い、小石川高

1冊も出し活躍している。そんな建畠さんは知る人ぞ知る言葉ファン。美術と詩によりはぐくまれた美的感性に、言葉はもう映るのだろうか。【宮辻政夫・専門編集委員】

言葉の力に感じた震え

校でまた一緒にになりました。同じクラスにはならなかったですが、水泳部で一緒でした。それに僕はボクシングをしてたんですが、彼興味があって、僕も物書きになら

うと思っていたので、再会後、同人誌を出しました。雑誌のタイトルは「アンテナルク」、これは不実な人々、という意味で彼が付けました。それに「壁画」とか、みな3号でつぶれています。英大夫は詩を書いていましたね。

「合邦」ですね。◇「合邦」は、お辻が義理の息子の俊徳丸に恋を仕掛け毒まで飲ますが、実は陰謀から助けるため。最後は自分が犠牲となり命を救う。

◇言葉で感動した舞台は。

(竹本) 越路(こしじ)大夫さん(02年死去、人間国宝)はすごいな、と思っていました。理知的な語り口で、威厳があり、学者みたいな感じですね。越路大夫さんの「摂州合邦社」を聞いた時、言葉で初めて震えたんですよ。不条理というか、ギリシャ悲劇に似ていますね。今まで聴いた言葉の中で、一つ挙げろ、と言われたら越路大夫さんの

◇詩の朗読会もしています。

僕は声が出ておらず、軸線がふらふらするらしいので、英大夫に教えてもらいました。彼が僕の声の軸線をもらえて、「そこだ、その声出せ」と言いその通りにすると、ポーンと声が出た。自分じゃないみたいでびっくりしました。さすがです。また英大夫が僕の数編の詩を義太夫で語ってくれているので、そのうちCD出そうと話しています。



言葉の魅力について語る建畠哲・国立国際美術館館長

大阪市北区の同館で、馬場理沙撮影

豊竹英大夫さん

建畠と東京・国立劇場の楽屋で再会した時のことはよく覚えてます。びっくりしました。



た。一浪してあの年、東大を受験して落ちて、小説を書きたい、と思ってました。祖父(豊竹若大夫)が4月に亡くなり通夜の時、(豊竹) 昌大夫兄さんに「天夫にならんか」

詩的感覚合う40年来の友

と誘われたんです。中学生のころは弁論部と水泳部で活動してましたから。兄さんには「冗談やない」と言ったんですが、(竹本) 春子(はるこ)大夫師匠に当時の大阪・朝日座に連れていかれ(竹本) 津(つ)大夫師匠の「弁慶上使」を聴いて「これはすごい、アバンギャルドな芸やなあ」と感動しました。建畠とは詩的感覚が合うんです。合評会でも僕は直感でズバツと言っているので。同人誌仲間でも付き合っているのは彼と僕だけです。